

富秋中学校区等まちづくり検討会議（第12回） 議事概要

1. 日 時：令和2年1月23日（木）19：00～20：00

2. 場所：和泉市 人権文化センター 大会議室

3. 出席者：委員 18名

4. 議事次第

- (1) 地域説明会の結果について
- (2) 住民アンケートの結果について
- (3) まちづくり構想（地域案）について
- (4) 今後の予定について

5. 議事概要

※以下、特記無き場合委員の発言

■地域説明会の結果について

○事務局より12/21（土）に行った地域説明会の結果について口頭説明。

- ・何か意見はあるか。（森事務局長）

⇒特に意見はなかった。

■住民アンケートの結果について

○市浦より資料説明 【まちづくり構想（地域案）に関するアンケート調査】

■まちづくり構想（地域案）について

○市浦より資料説明 【「まちづくり構想（地域案）」】

- ・アンケートの督促はしたのか。

→行っていない。（コンサルタント）

- ・アンケートは回収率が4～5割必要かと思ったが、説明では今回の回収率（13.9%）でも有効ということであった。もう一度説明してほしい。

→アンケートの有効性は、端的にいうと母集団に対する回収数（サンプル数）で決まる。

今回の調査設計では、母集団に対して、「はい」「いいえ」が半々となる「回答比率」が50%、信頼度95%、誤差率5%という一般的に統計上有効とされる条件で、必要なサンプル数がいくつかをまず計算した。その結果必要サンプルは358サンプルであった。この回答比率は、回答が半々の50%の時に誤差が最大となり、回答比率がどちらかに偏る（高いまたは低い）とその誤差は少なくなるため、サンプル数はもっと少なくても済むこととなる。例えば、回答比率80%、信頼度95%、誤差率5%の場合の必要サンプルは235サンプルである。今回のアンケートでは、賛成・反対を問う全ての設問（問5以降）で、80%以上の賛成（このまま進めてほしい+概ね賛成だが、進める上で意見があるの合計）があり、306サンプル確保しているため、集計結果については信頼度95%、誤差率5%を確保できている結果となる。（コンサルタント）

- ・弥生の里は、12月に日帰り入浴をやめて、外国人向け宿泊に事業を絞ったが、プロジェクト6のような内容を書くことについて確認してはどうか。

→相談して検討する。(事務局長)

- ・原案のまま、「まちづくり構想(地域案)」をとりまとめるということによいか。(事務局長)
(異議なし)

- ・これをもって「まちづくり構想(地域案)」を策定とする。(事務局長)

■今後の予定について

○市浦より資料説明 【「まちづくり構想(地域案)」策定に向けた会議等の開催経緯等】

- ・1月26日の市長への「まちづくり構想(地域案)」の提出する

- ・2月4日の検討会議で行政案の説明があるということであったが、この行政案で地域案の内容がひっくり返された場合はどうなるのか。

→どこまで具体的に書き込めるかはあるが、あくまで地域案を尊重した案であり、ひっくり返るような案にはならない。(市)

- ・アンケート結果では、部会やワークショップに参加したことがない方が大半で地域説明会も顔見知りが多かった。市民説明会がどれくらいの方が集まるのかが心配。どうすればもっと多くの住民に見てもらえるかを考える必要がある。

→呼びかけ方については市とも相談したい。また、幸校区の場合は、校区単位での話し合いの場を設けることになると思う。場合によっては幸校区の個別説明をしてもらうことも考えられる。このあたりについても市と相談して進めたい。(事務局長)

- ・まちづくり構想の実現までは期間が長い。優先順位を決めるべきだと思う。優先順位の低いものはゆっくりやっていってもよい。また、先のことであるので、高齢者も良いが、もっと若い方から意見を出してもらいたいと思う。

- ・アンケートは賛成多数の結果であったが、反対意見も一定数あった。今後の参加を増やすためにもこの意見を重点的に分析した方がよい。

- ・目先で取組むことは耐震性に関する事だと思う。いつ地震が起こるかわからないので、耐震性が低いなら壊すという判断も重要。また、跡地については当面置いておくというのも選択肢だと思う。

- ・3月5日に地域の訓練があるので、そこで市民説明会を行なってはどうか。なるべく多くの方、特に若い方の意見を聞くべき。

- ・若い方をどう集めるかを考えるべきだろう。例えば、子育て・教育部会を若いメンバーだけでやることなども考えられるのでは。

- ・市民説明会などは、人が集まる行事を利用するなど、柔軟に開催してほしい。

- 2月4日に第14回検討会議があるが、その先はどのような集まり方となるのか。個別の内容を議論するためには、これまでのような部会が必要だと思う。
- 6つのプロジェクトがあるので、それぞれに部会が作られることになると思う。2月4日には次の体制に向けた議論を行い、新年度は新たな体制で臨みたいと思う。(事務局)